

指定校番号	28081	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立城山北中学校	校長	松島範明	生徒指導主事	教誓英憲
-----	------------	----	------	--------	------

<b>取組事例名</b>	『小・中合同あいさつ運動』
<b>取組のねらい</b>	『さわやかスマイルMTC（城山北中学校区スタンダード）』（93.8%）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9年間を見通した小・中連携の取組の一項目である『時と場に応じたあいさつや返事、言葉遣いが出来る』生徒の育成を目指し、異学年交流を土台とする継続的な取組を実践する。</li> </ul>
<b>取組の具体的内容</b>	『小・中合同あいさつ運動』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成26年度より、生徒会執行部を中心に、幟（標語は毎年生徒から募集）やたすきを利用して、年3回（1回につき2日間）実施している。</li> <li>・ 各小学校の校門だけでなく、小学校の朝の取組（“あいさつ運動”等）に参加し、校舎内を回ったりすることもある。</li> <li>・ 中学校では、毎朝、校長をはじめ、担当教員、生徒会担当生徒（執行部・生活委員会）、ボランティア生徒（主に部活動生徒）が、プラカードを手に、正門で“あいさつ運動”を行っている。</li> <li>・ 定期的にPTA生活部の保護者や小学校の生徒指導主事も参加していただいている。</li> </ul>
<b>取組の課題・創意工夫</b>	『各校の校長と保護者の理解・協力と校内調整、小・中連携の定例化』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の安全な移動と授業への影響を最小限に（→教員・保護者の理解と協力＝校内調整）。</li> <li>・ 生徒会執行部生徒と教員だけの活動から、より多くの生徒の参加を実現させる手だての工夫。</li> <li>・ 今年度は、各校共に生徒指導主事が時間調整し易い状況にあったが、今後、小・中連携の定例化をどう仕組んでいくか。</li> <li>・ 教職員等の人事異動に影響されず、適切に継続できる方法の構築。</li> </ul>
<b>取組の成果（効果）</b>	『きちんとしたあいさつの意識と実践の継続』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立ち止まってきちんとあいさつをする生徒が、校内外共に以前より多くなってきた（96.7%）。</li> <li>・ 年齢相応の意識を持てる生徒が出始めている（83.3%）。</li> <li>・ 一つの活動を継続して取り組むことで、自己肯定感と連帯感（共感的人間関係）が養われている。</li> <li>・ PTAの参加が次第に増え、生徒の様子を見ていただいたり、教員との会話が増えたりしてきた。</li> </ul>
<b>今後の展開</b>	『交流の活性化、連携と継続』
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ より多くの生徒の参加の実現（→生活委員会の活用、学級別や地域別ボランティア生徒の募集等）。</li> <li>・ 小学生に中学校の“あいさつ運動”に参加してもらう手だての工夫（→小・中連協をより密に）。</li> <li>・ 教職員等の人事異動に影響されず、適切に継続できる方法の構築。</li> </ul>

## 他校へのアドバイス『小・中連携の充実と継続』

- ・生徒指導主事の定期会合（連絡協議会）の実施。
- ・日頃から学校訪問や電話連絡など、情報交換等をより密にする努力。
- ・特別支援コーディネーターや生徒会担当、SSW、SC等々を含めた交流（親睦）。
- ・校内で、生徒指導部内はもちろん、教務部との連携（意見交換）の活性化。

### 《写真資料》

